

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

障害認定を受けない難聴者の合理的配慮の実態と課題の調査に関する研究

研究分担者 大阪公立大学医学部・聴覚言語情報機能病態学寄附講座・特任教授
阪本浩一

研究要旨

本分担研究では、障害認定を受けない難聴者が必要とする合理的配慮の実態と課題を把握するためのアンケート調査について、分担研究者として、主として聞き取り困難症を扱う立場から調査項目の検討に協力した。令和7年度は、研究班で作成された調査項目案に対し、聴力レベルや障害認定の有無だけでは把握しにくい聞き取りにくさ、困難が生じやすい場面、環境要因、周囲への説明の難しさ、必要な情報保障やコミュニケーション上の配慮が回答に反映されるよう、設問表現、選択肢、自由記述欄の一部拡充について意見を述べた。調査結果の整理に際しては、聞き取り困難の観点から結果を読み取る際の留意点を確認し、合理的配慮の検討につながる論点の整理に協力した。

A. 研究目的

障害認定を受けない難聴者は、身体障害者手帳等の制度的支援の対象となりにくい一方で、会議、窓口対応、医療機関での説明、教育・就労場面、騒音下での会話など、社会生活上の多様な場面で聞き取りや情報取得の困難を経験しうる。合理的配慮の提供が社会的に求められる中、障害認定の対象とならない難聴者の困難、必要な配慮、配慮を求める際の障壁、相談先や支援制度へのアクセスの実態を把握することは重要である。本分担研究では、研究班が実施するアンケート調査に対し、主として聞き取り困難症を扱う立場から、聞き取りにくさの具体的場面や合理的配慮に関する設問が過不足なく含まれるよう、調査項目の検討に協力することを目的とした。

B. 研究方法

1. 調査項目の作成への協力

研究班で作成された調査項目案について、分担研究者として内容を確認し、主として聞き取り困難症を扱う立場から、関連項目の検討に協力した。具体的には、聴力レベルや障害認定の有無だけでは把握しにくい聞き取りにくさ、複数人での会話、騒音下、電話・オンラインでのやり取り、医療・行政・教育・就労場面での説明理解、

本人が配慮を求めにくい要因などが回答に反映されるよう、設問表現、選択肢、自由記述欄の拡充について意見を述べた。班会議、パネルディスカッション、研究班内の意見交換を通じて、回答者の負担を抑えつつ必要な情報を得られる構成となるよう検討した。

2. 調査結果の解析への協力

収集された回答の整理に際して、個人が特定されない形で集計・分類された結果を踏まえ、聞き取り困難の観点から結果を読み取る際の留意点について意見を述べた。特に、困難場面、必要とされる配慮、周囲の理解、相談・支援へのつながりに関する回答について、聴力閾値や障害認定の有無だけでは説明しにくい聞き取りにくさにも留意して論点を整理した。

（倫理面への配慮）

本研究は、研究代表施設における一括倫理審査により承認を得た研究計画に基づき実施した。分担研究者は、当該承認内容および研究計画書に従い、研究対象者の人権擁護と個人情報保護に配慮した。調査の実施にあたっては、研究の目的、参加が任意であること、回答しない自由、個人が特定されない形で集計・公表することを説明した。解析では氏名等の直接識別情報を取り扱わず、回答データは研究目的の範囲内で管

理した。承認機関名、承認番号等の詳細は、研究代表者の総括研究報告書の記載に準拠する。

C. 研究結果

1. 調査項目作成への協力

研究班内での検討を通じて、障害認定を受けない難聴者の合理的配慮を把握するアンケート項目の中に、聞き取り困難症の観点から重要と考えられる内容が含まれるよう協力した。具体的には、聴力レベルのみでは捉えにくい聞き取りにくさ、環境や場面による困難の変動、情報提示方法への要望、周囲に困難を説明しにくいこと、必要な配慮を求める際の心理的負担などを把握できるよう、関連設問や選択肢、自由記述欄の一部拡充に助言した。

2. 調査結果解析への協力

調査結果の整理においては、困難場面、合理的配慮の利用経験、必要とされる配慮、未充足ニーズ、周囲の理解や相談導線に関する課題を読み取る際、聞き取り困難の観点を補足して確認した。暫定的な整理では、聞こえにくさが外見から把握されにくいこと、本人が配慮を求めることに心理的負担を感じることで、場面ごとに必要な配慮が異なること、情報保障や聞き取りやすい環境調整が重要であることが論点として確認された。

3. 今後の整理に向けた課題

最終的な集計では、対象者数、回答率、属性別の傾向、自由記述の代表的内容を確認し、総括研究報告書との整合を図る必要がある。

D. 考察

障害認定を受けない難聴者は、制度上は支援の対象として見えにくい場合があるが、実際には場面に応じた情報保障やコミュニケーション上の配慮を必要としている可能性がある。特に、聞き取り困難症の観点からは、聴力検査の結果や障害認定の有無だけでは、複数人での会話、騒音下、電話・オンライン、医療機関や行政窓口での説明などで生じる困難を十分に把握できない場合がある。本分担研究では、研究班全体の調査設計の中で、こうした聞き取り困難に関する観点を補足する形でアンケート項目の検討に協力した。これにより、障害認定の有無だけでは見えにくい合理的配慮のニーズを把握するための設問構成を検討する一助となった。今後は、最終的な回答数、属性別傾向、自由記述の内容を踏まえ、聞き取り困難の特性にも配慮した支援方を検討することが望まれる。

E. 結論

令和7年度は、障害認定を受けない難聴者の合理的配慮の実態と課題を把握するためのアンケート調査について、分担研究者として、主として聞き取り困難症を扱う立場から、関連項目の一部拡充および結果の読み取りに協力した。調査項目の検討では、聴力レベルや障害認定の有無だけでは捉えにくい聞き取りにくさ、困難が生じやすい場面、必要な情報保障やコミュニケーション上の配慮が把握されるよう助言した。今後は、研究班全体での集計・解析結果と整合させながら、聞き取り困難を含む多様な聞こえの困難に対する合理的配慮のあり方を検討していく必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 阪本浩一. 聞き取り困難症への補聴器適応の試み. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 97(4):340-346, 2025.
- 2) 阪本浩一. 学習障害の背後にある「聞き取り困難」—LiD/APDとLDの関連を見落とさないために. チャイルドヘルス 28(10):754-756, 2025.
- 3) 阪本浩一. 「聞こえているのに、聞き取れない」聞き取り困難症 (LiD) 聴覚情報処理障害 (APD) って何? 中材業務及び感染対策研究会研究会収録 162:43-70, 2025.

2. 学会発表 (発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

- 1) 阪本浩一. Development of Comprehensive Guidelines for LiD/APD in Japan. 17th Congress of the European Society of Pediatric Otorhinolaryngology (ESPO 2025), Stuttgart, Germany, 2025.5.4. ; ESPO 2025 Online Programme, URL: <https://www.espo2025.com/programme>
- 2) 阪本浩一. 聞き取り困難症 (LiD) の現状と展望. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会, 神奈川, 2025.5.27-30 ; 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報 128(4):634, 2025.
- 3) 阪本浩一. 小児におけるLiD/APDの診断と支援の現状—機能性難聴と関連について. 日本小児耳鼻咽喉科学会総会, 岡山, 2025.6.19 ; 小児耳鼻咽喉科 46(Suppl.):84, 2025.
- 4) 阪本浩一. コミュニケーションの二重障害—LiD/APDと吃音の併存から考える. 日本吃音・流暢性障害学会, 教育講演2, 九州大学, 2025.8.23 ; 日本吃音・流暢性障害学会第13回大会プログラム・抄録集:45, 2025

- 5) 阪本浩一．吃音外来を担当する医師としての合理的配慮申請の実際．日本吃音・流暢性障害学会, シンポジウム1, 九州大学, 2025.8.23; 日本吃音・流暢性障害学会第13回大会プログラム・抄録集:61, 2025.
- 6) 橋本孝佑, 阪本浩一, 關戸智恵, 内山良則, 夏山美咲, 藤本恵, 角南貴司子. LiD/APD診断症例に対するACT検査の導入と聴取努力評価の試み. 日本聴覚医学会総会・学術講演会, 千葉, 2025.10.15-17 ; Audiology Japan 68(5):376, 2025.
- 7) 阪本浩一, 關戸智恵. 聴覚情報処理検査と発達特性からみたLiD/APDの層別化の試み. 日本聴覚医学会総会・学術講演会, 千葉, 2025.10.15-17 ; Audiology Japan 68(5):377, 2025.
- 8) 阪本浩一. 「聞こえているのに聞きとれない？」から考えるLiD/APD—診断と支援の第一歩. 日本音声言語医学会総会・学術講演会, 教育講演, 兵庫, 2025.10.23; 第70回日本音声言語医学会総会・学術講演会 プログラム・予稿集:70, 2025
- 9) 關戸智恵, 阪本浩一, 角南貴司子, 小渕千絵, 夏山美咲, 藤本恵. 聞き取り困難症／聴覚情報処理障害 (LiD/APD) 患者の聴覚情報処理検査 (APT) の各項目のモデル化の試み. 日本音声言語医学会総会・学術講演会, 兵庫, 2025.10.23 ; 第70回日本音声言語医学会総会・学術講演会 プログラム・予稿集:130, 2025

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
該当無し
2. 実用新案登録
該当無し
3. その他
該当無し